



令和元年度 まち・ひと・しごと創生総合戦略推進にかかる施策方針

まち・ひと・しごと創生総合戦略の着実な推進を目的として、令和元年5月に策定した施策方針の取組結果について、次のとおり報告します。

令和2年3月

教育委員会事務部長 福岡正義

1 総括

- 1 惜陰小学校・進徳小学校・吉川小学校のトイレ改修や、全小中学校音楽室にエアコンの整備および防犯カメラの設置など、学校施設の教育環境の向上と安心安全の確保を図りました。また、今年度からの2ヶ年で文化センター耐震改修工事を実施するとともに、立待公民館の耐震改修工事・大規模改修工事や文化の館空調設備改修・特定天井改修工事の設計にも着手し、施設の強度化・長寿命化を図りました。
- 2 ものづくりを核としたふるさと教育に取り組み、児童生徒の郷土を愛する心の育成に努めました。産業体験や職場体験、眼鏡デザイン実習、ものづくり博覧会への参加等を通して、本市のものづくり産業に対する理解を深めるとともに、地域の方との連携・協力を通して、地域の歴史を知り、文化・自然に親しむことを実感することにより、その継承・発展の大切さに気づき、ふるさと鯖江を発展させようとする意欲や態度の育成に努めました。
- 3 児童生徒の生きる力（確かな学力、豊かな心、たくましい体）を育む学校教育の推進に努めました。確認テストや新聞の活用とともに、授業のユニバーサルデザイン化・ICTを積極的に活用した授業を推進して学力向上に努めるとともに、外部講師派遣による児童生徒の体力向上にも努めました。また、プログラミング教育や道徳教育の授業実践に取り組み、新学習指導要領実施に向け、準備を進めました。
- 4 生涯学習・まちづくり活動を支援する場としての公民館等との連携においては、公民館長会や職員会議への出席を通して事務改善等を行い、連携強化を図りました。特に、使用料改正や文化講座の説明会においては各公民館と情報を共有するなど、より一層連携を強化し一体となって市民への周知に努めました。成人式の実施に当たっては、市連合青年団のメンバーが率先して成人式実行委員会での調整役を担うなど、青年活動の活性化を図りました。
- 5 高年大学において、地域の高齢者が仲間づくりの輪を広げ、交流や学びを通して、健康長寿でいきいきと勉学に励むとともにクラブ活動や地域貢献にも積極的に取り組みながら交流を深めました。
- 6 市やスポーツ協会等が行うスポーツ振興事業、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団の活動を中心とした開放学校の運営、指定管理を含めたスポーツ施設の適切な維持管理など、より充実したスポーツ環境の提供に努め、生涯スポーツ社会の推進を図りました。また、昨年度行われた「福井国体・障スポ」を契機として、体操競技に加え、新たなお家芸競技として「なぎなた選手育成事業」を創設するなど、全国レベルで活躍できる競技者の強化育成を支援しました。

- 7 文化の館では、多様化する市民ニーズに応え、乳幼児から高齢者まであらゆる層の市民が、豊かな心を育めるよう、多様な図書資料の収集と蔵書の充実を図りました。また、市民協働でのライブラリーカフェ等の開催、子どもの読書支援や中高生のための学習室の開放など、図書館に気楽に足を運んでもらえる取組みを進めました。
- 8 まなべの館の企画展や創造空間事業の開催により、市民が身近に芸術文化に触れ、参加できる機会を提供しました。また、日本ではじめて開催された国際博物館会議で市の芸術文化、歴史を国際規模で紹介し、文化振興に努めました。このほか、国史跡兜山古墳の環境整備事業の推進、文化財の調査、指定、講座の開催等をとおして文化遺産の保存・活用を図るとともに、ふろさと学習を推進しました。



SDGs推進に係る重点取組項目




2030年の地球を担う今の子どもたちに、SDGsを理解する学習を取り入れ、身近なところから考えるきっかけづくりを進め、自ら考え、行動する力を育成するために以下のことに取り組みました。まず、目標5「ジェンダー平等を実現しよう」の達成を目指し、自己肯定感を高め、他者理解を深めながら、互いに認め合い、励まし、支え合うための学級での話し合い活動を進める中で、男女平等の大切さを学びました。また、目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」の達成を目指し、教室等での節電・節水等の実践を進めながら、エネルギーを上手に使うことを学びました。さらに、目標12「つくる責任つかう責任」の達成を目指し、食育の充実を図りながら食文化・食の安全・地産地消の問題等について学びました。

生涯学習・まちづくり活動を支援する場として、公民館・高年大学等との連携強化に努め、また「鯖江型」生涯スポーツ社会を推進し、スポーツ環境を最大限に活用した健康長寿の伸長を図ることで、目標4「質の高い教育をみんなに」および目標11「住み続けられるまちづくりを」の達成に努めました。

2 課題

- 1 学校施設の老朽化が進む中、改築等大規模改修が必要となる施設が相次ぎ、また普通教室等整備済みエアコンの更新も順次必要となります。今年度策定する個別施設計画を踏まえ、改修費用の平準化や、国の補助制度を活用するなど財源の確保を含め、計画的に事業を進め、施設の長寿命化と教育環境の向上を図る必要があります。
- 2 鯖江市が世界に誇る産業への理解を深めたり、関心を高めたりするものづくり教育を推進しながら、郷土への自信と誇りを育むとともにその継承・発展の大切さに気付かせるふるさと教育をさらに充実させる必要があります。
- 3 I Tのまち鯖江にふさわしく、I C T機器を活用した教育の取組みや学習環境の充実、プログラミング教育の科目での取組みなど、I C T教育を計画的に推進していく必要があります。
- 4 公民館および併設の体育館等社会教育施設は、生涯学習の場としてだけでなく、近年、まちづくり・自治振興・防災・福祉・環境等の拠点施設としての重要性が増し、災害時や緊急時の避難場所としての高い安全性等が求められており、今後、施設の特定天井や照明器具等の耐震補強を図る必要があります。
- 5 スポーツ協会、種目協会、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団等、本市の活発なスポーツ団体活動および市民のスポーツ活動を支援していくため、活動の拠点となるグラウンド、体育館、武道施設等のスポーツ施設の適切な水準を維持し、時宜に応じた整備や更新を図っていくことが課題となっています。
- 6 文化の館の施設は、築22年を経過し施設の維持管理、修繕に多額の経費を要しています。特に空調設備においては、機器の摩耗が著しく、早急に更新を図る必要があります。また、2階特定天井の耐震対策を行う必要があります。

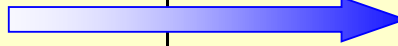
3 重点的に進める項目の取組結果

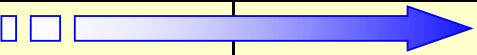
<取組項目> 	<取組結果>
1. 施設の計画的整備・改修 学校施設の整備や改修、維持補修を計画的に行うとともに、適切な管理による施設の長寿命化、安全・安心の確保および利便性の向上を図ります。	【成果等】 目標を達成しました。 小中学校の音楽室エアコン整備や小学校トイレの洋式化など、教育環境の向上を図りました。また個別施設計画の策定や、文化センターの耐震改修工事の発注など、施設の長寿命化を図りました。
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 小・中学校特別教室エアコン整備 14校 ◆ 小学校のトイレ改修 (洋式化、バリアフリーの推進) 3校 ◆ 小・中学校個別施設計画策定 15校 ◆ 社会教育施設(文化センター)の耐震改修工事 1施設 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 小・中学校特別教室エアコン整備 14校 [A] ◆ 小学校のトイレ改修 (洋式化、バリアフリーの推進) 3校 [A] ◆ 小・中学校個別施設計画策定 15校 [A] ◆ 社会教育施設(文化センター)の耐震改修工事 1施設 [A]
2-1. ものづくりを核としたふるさと教育(学習)の推進 ものづくり体験等を通して地場産業の魅力を理解し、ふるさとに愛着や誇りを持ち、地域の発展に貢献できる人材を育成する。そのために、ゲストティーチャーによる講演会を開催するとともに、小学校では地場産業製造体験や施設見学、中学校では職場体験においてもものづくりに関わる企業・事業所の受入人数の増加を目指し、またデザイン実習などに取り組みます。	【成果等】 目標を達成しました。 ものづくり体験を行うことで地場産業の魅力を理解し、ふるさとに愛着や誇りを持ち、地域の発展に貢献できる人材の育成を目指しました。またものづくりの理解を深めるためにゲストティーチャーによる講演会の開催や、小学校では地場産業製造体験や施設見学の実施、中学校では職場体験におけるものづくりに関わる企業・事業所の受入人数の増加を図るとともに、デザイン実習にも取り組みました。
<ul style="list-style-type: none"> ◆ ものづくりや歴史文化などふるさと理解のためのゲストティーチャーによる講演会・体験活動の実施 全小中学校での各校2回以上実施率100% ◆ 眼鏡、繊維、漆器の製作体験の実施 全小学校での実施率100% ◆ 眼鏡のデザイン実習の実施 全中学校での実施率100% ◆ ものづくり博覧会への参加 全中学校での実施率100% ◆ 職場体験におけるものづくりに関わる企業・事業所での体験者数 全中学校2年生の10% (672人中68人) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ものづくりや歴史文化などふるさと理解のためのゲストティーチャーによる講演会・体験活動の実施 全小中学校での各校2回以上実施率100% [A] ◆ 眼鏡、繊維、漆器の製作体験の実施 全小学校での実施率100% [A] ◆ 眼鏡のデザイン実習の実施 全中学校での実施率100% [A] ◆ ものづくり博覧会への参加 全中学校での実施率100% [A] ◆ 職場体験におけるものづくりに関わる企業・事業所での体験者数 全中学校2年生の12.5% [A] (658人中82人)
2-2. ふるさと学習の推進 先人から受け継いだ地域の歴史や文化を学び、また、体験することにより、ふるさとへの愛着と誇りを持つようふるさと学習に取り組みます。	【成果等】 目標を概ね達成しました。 各地域の歴史や文化に関する講座や体験イベントを多数開催し、ふるさとの素晴らしさを再認識するとともに、愛着と誇りを持つようふるさと学習に取り組みました。
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域でのふるさと学習事業の開催 (地区公民館) 40回 ◆ ふるさと学習の参加者数 2,000人 (まなべDEわくわくアートフェスタ、ふるさとさばえ検定、ふるさとさばえキッズ検定、近松入門講座、出前講座等) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域でのふるさと学習事業の開催 (地区公民館) 33回 [B] ◆ ふるさと学習の参加者数 2,808人 [A] (まなべDEわくわくアートフェスタ、ふるさとさばえ検定、ふるさとさばえキッズ検定、近松入門講座、出前講座等)

<取組項目> □ □ □	<取組結果>
<p>3-1. 基礎学力の定着・新学習指導要領実施に向けた環境整備</p> <p>基礎学力の定着のために、児童の学習到達度を適切に把握し、課題克服のための指導の工夫・改善を行うとともに、新学習指導要領実施に向けてICT機器や新聞を積極的に活用した授業を推進し、一層の学力向上を目指します。また小学校での英語科・外国語活動では、国際理解を進めるために、外国人講師の英会話による授業を通して、国際人として成長する基礎を養い、外国語に対する感覚を磨く学習を支援します。さらに、小中学校でクラブ活動・授業・部活動をそれぞれ活用し、プログラミング教育を実施します。また、中学校社会科でSDGs（持続可能な開発目標）を理解する学習を取り入れます。</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>基礎学力の確実な定着を図るため、児童の学習到達度を十分に把握し、課題克服のための指導の工夫・改善を行うとともに、新学習指導要領実施に向けてICT機器や新聞を積極的に活用した授業を推進し、一層の学力向上に取り組みました。小学校での英語科・外国語活動においては、言語や文化に対する理解を深めるために、外国人講師の英会話による授業を行い、外国語に対する感覚を磨く学習を支援しました。また来年度からプログラミング教育が必修化となるため、小中学校で、クラブ活動・授業・部活動をそれぞれ活用した教育を実施しました。SDGsに関しては、中学校社会科で講演会を通し、理解する学習を取り入れました。なお、プログラミングに関する研修・実習につきましては、新型コロナウイルス感染症の流行のため、2校で未実施となりました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市独自の確認テストの実施 全小学校での実施率100% ◆ ICT機器を活用した公開授業の実施 全小中学校での各校2回以上実施率100% ◆ 新聞を活用した授業の実施 全小中学校での実施率100% ◆ こども用パソコンを活用したプログラミングの基礎実習の実施 全小中学校での実施率100% ◆ 教職員プログラミング研修の実施 全小中学校での実施率100% ◆ 外国人講師による授業の実施 小学3・4年生 18回 小学5・6年生 35回 ◆ 学校が楽しいと思う児童・生徒の割合 小学6年生 91.0%、中学3年生 87.0% ◆ SDGsに関する講演会の開催 全中学校各1回 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市独自の確認テストの実施 全小学校での実施率100% [A] ◆ ICT機器を活用した公開授業の実施 全小中学校での各校2回以上実施率100% [A] ◆ 新聞を活用した授業の実施 全小中学校での実施率100% [A] ◆ こども用パソコンを活用したプログラミングの基礎実習の実施 全小中学校での実施率87% [-] ◆ 教職員プログラミング研修の実施 全小中学校での実施率87% [-] ◆ 外国人講師による授業の実施 小学3・4年生 17.1回 小学5・6年生 33.5回 [A] ◆ 学校が楽しいと思う児童・生徒の割合 小学6年生 90.0%、中学3年生 86.5% [A] ◆ SDGsに関する講演会の開催 全中学校各1回 [A]
<p>3-2. 体力の向上・目の健康(眼育)・防災教育・食育の推進</p> <p>学校体育の授業の充実と指導教員の資質向上を図りながら児童生徒の体力の向上を目指すとともに、目の健康につながる取組みを推進します。さらに、災害時の危険を理解し、自らの安全を確保するために適切な行動がとれるような防災教育に努めます。</p> <p>また、子どもたちの健全な心身の成長のため、食育の推進に努めるとともに、食文化と農業に対する理解を深めます。さらに、生産に携わる人や食材への感謝の念を育むため、地域との連携により各小学校の学校給食の活用を図りながら、地場産（鯖江産）野菜等の使用率の向上を目指します。また、健康面により配慮した学校給食を提供します。さらに、経済的困窮家庭の子どもへの支援について担当部局との情報共有を図ります。</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>学校体育の授業の充実と指導教員の資質向上を図りながら児童生徒の体力の向上を目指すとともに、目の健康につながる取組みを推進しました。さらに、災害時の危険を理解し、自らの安全を確保するために適切な行動がとれるような防災教育に努めました。</p> <p>また、子どもたちの健全な心身の成長のため、食育の推進に努めるとともに、食文化と農業に対する理解を深めました。さらに、生産に携わる人や食材への感謝の念を育むため、地域との連携により各小学校の学校給食の活用を図りながら、健康面により配慮した学校給食を提供しました。今年度、実施期間中の天候不順（6月：高温被害、11月：台風被害）の影響を受け、数値が下がる結果となりました。経済的困窮家庭の子どもへの支援について担当部局との情報共有を図りました。</p> <p>鯖江和膳の日・ミニ地場産デー・アイアンの日・歯っぴーの日につきましては、新型コロナウイルス感染症の流行のため、3月分が未実施となりました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 体育実技講師の派遣 全小中学校での実施率100% ◆ 目の健康（眼育）に関するDVDを活用したビジョントレーニングの実施 全小中学校での実施率100% ◆ 防災教育授業の実施 全小中学校での実施率100% ◆ 朝食摂取率 100% ◆ 学校給食の食育月間（6月・11月）における市内産食材平均使用率 30% ◆ 鯖江和膳の日・ミニ地場産デー・アイアンの日（鉄分強化メニュー）・歯っぴーの日（かみごたえのあるカルシウム強化メニュー）の実施 全小学校各11回 ◆ 経済的困窮家庭の子どもへの支援についての連絡会議の開催 2回 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 体育実技講師の派遣 全小中学校での実施率100% [A] ◆ 目の健康（眼育）に関するDVDを活用したビジョントレーニングの実施 全小中学校での実施率100% [A] ◆ 防災教育授業の実施 全小中学校での実施率100% [A] ◆ 朝食摂取率 96.6% [A] ◆ 学校給食の食育月間（6月・11月）における市内産食材平均使用率 16.1% [-] 【（参考）地場（県内）産使用率39.2%】 ◆ 鯖江和膳の日・ミニ地場産デー・アイアンの日（鉄分強化メニュー）・歯っぴーの日（かみごたえのあるカルシウム強化メニュー）の実施 全小学校各10回 [-] ◆ 経済的困窮家庭の子どもへの支援についての連絡会議の開催 2回 [A]

<取組項目>		<取組結果>	
4-1. 公民館等との連携強化 生涯学習・まちづくり活動を支援する場である公民館等との情報共有に努め連携強化を図るとともに、地域課題の解決に向けた取組み事例の情報収集、発信を行います。		【成果等】 目標を達成しました。 公民館長会や職員会議への開催および出席ならびに関係課合同で地域支えあい推進員へのヒアリングを実施しました。特に、使用料改正および文化講座の説明会を全地区公民館において実施するなど、公民館との情報共有および連携強化を図るとともに、制度改正の周知に努めました。地域課題の発信については、各館ともイベント開催に併せ、ホームページやパネル展示等の情報発信を行いました。	
◆ 公民館連絡協議会等への参加回数 12回 ◆ 地域課題の解決に向けた取組み事例の発信回数 3回		◆ 公民館連絡協議会等への参加回数 18回 [A] ◆ 地域課題の解決に向けた取組み事例の発信回数 3回 [A]	
4-2. 地域の教育力の向上 地域の小学生を対象に地域住民との交流を通して公民館等で合宿通学事業等を行うことにより、地域の子どもは地域で育てるという意識の醸成や地域の教育力の向上を図ります。また、子どもたちが郷土に誇りと愛着を持てるよう、ふるさと学習・食育への取組みを進めます。		【成果等】 目標を概ね達成しました。 地域住民と子どもたちの交流を通して、公民館等で合宿通学事業等を行うことにより、地域の子どもは地域で育てるという意識の醸成や地域の教育力の向上を図りました。また、子どもたちが郷土に誇りと愛着を持てるよう、ふるさと学習・食育への取組みを進めました。なお、公民館の利用者数については、新型コロナウイルス感染症対策に伴うイベント等開催の自粛要請をしました。	
◆ 公民館の利用者数 50万人 ◆ 公民館合宿通学事業等の実施 ・子どもの参加者数 450人 ・ボランティアの参加者数 1,000人 ◆ 公民館食育事業の開催 25回 ◆ 地域でのふるさと学習事業の開催 (地区公民館) 40回<再掲>		◆ 公民館の利用者数 47万人 [-] ◆ 公民館合宿通学事業等の実施 ・子どもの参加者数 418人 [B] ・ボランティアの参加者数 958人 [A] ◆ 公民館食育事業の開催 38回 [A] ◆ 地域でのふるさと学習事業の開催 (地区公民館) 33回<再掲> [B]	
4-3. 地域における青年活動の推進 各地区公民館で開催する青年交流事業を契機として、青年たちの相互理解や地域理解を深めるとともに、地域の活性化やまちづくりにつながるよう、地域における青年活動の活性化を推進し、情報発信に努めます。		【成果等】 目標を概ね達成しました。 各地区公民館での青年交流事業の開催のほか、ユースカレッジにおける早稲田大学生との連携事業、成人式実行委員会と連合青年団のメンバーの関わりなど、青年たちに相互理解や地域理解を含め、地域の活性化やまちづくりにつながる取組みを推進しました。	
◆ 地域青年交流事業の参加者数 7,000人 ◆ 地域青年交流事業の情報発信回数 3回 ◆ 勤労青少年ホームの利用者数 27,000人		◆ 地域青年交流事業の参加者数 6,105人 [B] ◆ 地域青年交流事業の情報発信回数 3回 [A] ◆ 勤労青少年ホームの利用者数 26,376人 [A]	
5. 高年大学の活性化 健康長寿および社会貢献を目的として、カリキュラムを充実するとともに、大学の活動を地域の諸活動と連携するため、まちなか授業や課外授業などを「市民公開講座」として開催します。		【成果等】 目標を達成しました。 健康長寿および社会貢献を目的として、更なるカリキュラムの充実にも努めました。また、高年大学が実施する全員学習、まちなか授業や課外授業などを「市民公開講座」として開催することで、大学と地域の諸活動と連携を図りました。	
◆ 高年大学の利用者数 33,000人 ◆ 健康・体育関連授業の開催 60回 ◆ 社会貢献関連授業等の開催 15回 ◆ ふるさと講座の開催 12回 ◆ 公開講座の開催 23講座 ◆ SDGs関係啓発講座の開催 9講座		◆ 高年大学の利用者数 37,130人 [A] ◆ 健康・体育関連授業の開催 65回 [A] ◆ 社会貢献関連授業等の開催 16回 [A] ◆ ふるさと講座の開催 15回 [A] ◆ 公開講座の開催 31講座 [A] ◆ SDGs関係啓発講座の開催 9講座 [A]	

<取組項目> □ □	<取組結果>
6-1. 生涯スポーツに親しむひとづくりの育成推進 全ての市民がその自発性のもと、生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境を整備し、「する」「みる」「支える」などを通じてスポーツの振興に関わることができるとの育成を推進します。	【成果等】 目標を概ね達成しました。 スポーツ庁の示した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」により、地域スポーツ団体と協働・融合した形で連携した活動方針の展開が進みつつあり、総合型地域スポーツクラブを中心とする活動の充実、底辺拡大が図れました
◆ 総合型地域スポーツクラブ会員数 2,200人 ◆ 小学生のスポーツ少年団および総合型地域スポーツクラブの加入率 40% ◆ スポーツ・健康教室、出前講座の開催 150回 2,500人	◆ 総合型地域スポーツクラブ会員数 2,144人[A] ◆ 小学生のスポーツ少年団および総合型地域スポーツクラブの加入率 36.6%[B] ◆ スポーツ・健康教室、出前講座の開催 128回 2,401人[B]
6-2. スポーツを通じた元気と活力あふれるまちづくりの推進 地域特性を活かしたスポーツイベントの開催などを通じて地域間での交流、地域内での異世代間の交流により、地域の一体感や活力を醸成するとともに、人間関係の希薄化などの問題を抱える地域社会の再生を図り、元気と活力あふれるまちづくりを推進します。	【成果等】 目標を概ね達成しました。 (一社)鯖江市体育協会やその加盟種目団体、総合型地域スポーツクラブ、市スポーツ推進委員、市スポーツ少年団等の各種イベント事業や開放学校での活動などを通じて、誰もが気軽にスポーツを楽しみ、健康づくりに取り組む機会を幅広く提供し、生涯スポーツの推進に努めました。なお、スポーツ施設の利用者数については、新型コロナウイルス感染症対策に伴うイベント等開催の自粛要請をしました。
◆ スポーツ施設の利用者数 36万人 ◆ スポーツ交流イベントの開催 15回 7,000人 ◆ スポーツリーダーバンク登録指導者数 50人	◆ スポーツ施設の利用者数 33.8万人[-] ◆ スポーツ交流イベントの開催 13回 10,975人[B] ◆ スポーツリーダーバンク登録指導者数 45人[B]
7-1. 文化の館における図書資料の充実 多様化する市民のニーズに応えるため、知的財産である図書資料の充実を図ります。また、ビジネス・起業支援コーナーを特設し利用の促進を図ります。	【成果等】 目標を概ね達成しました。 多様化する市民のニーズに応えるため、知的財産である図書資料の収集を図りました。また、ビジネス・起業支援コーナーを充実し利用の促進を図りました。
◆ 図書館の入館者数 30万人 ◆ 図書の貸出冊数 45万冊 ◆ ビジネス・起業支援図書の貸出冊数 3,000冊 ◆ 図書リクエストへの対応率 100%	◆ 図書館の入館者数 26.9万人[B] ◆ 図書の貸出冊数 38.6万冊[B] ◆ ビジネス・起業支援図書の貸出冊数 2,920冊[A] ◆ 図書リクエストへの対応率 97%[A]
7-2. 市民との協働事業の推進 市民協働事業として様々な分野で活躍している人を講師に招き、気楽な雰囲気の中で学ぶライブラリーカフェを開催し、市民に知識や教養を深める場を提供します。また、地元の演奏家などを招いてコンサートを開催し、演奏家に発表の場を提供することで、音楽のある生活の豊かさを推奨します。さらに、「えきライブラリー」との連携支援を推進します。	【成果等】 目標を達成しました。 市民協働事業として様々な分野で活躍している人を講師に招き、気楽な雰囲気の中で学ぶライブラリーカフェを開催し、市民に知識や教養を深める場を提供しました。また、地元の演奏家などを招いてコンサートを開催し、演奏家に発表の場を提供することで、音楽のある生活の豊かさを推奨しました。また、「えきライブラリー」との連携支援を推進しました。ただし、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、3月の開催は中止となりました。
◆ 「ライブラリーカフェ」の開催 12回 600人 ◆ 「カフェコンサート」の開催 2回 300人 ◆ 「えきライブラリー」の貸出冊数 1,000冊 ◆ 「えきライブラリー」の返却冊数 1,000冊	◆ 「ライブラリーカフェ」の開催 11回 538人[-] ◆ 「カフェコンサート」の開催 1回 135人[-] ◆ 「えきライブラリー」の貸出冊数 976冊[A] ◆ 「えきライブラリー」の返却冊数 1,016冊[A]

<取組項目> □ □ 	<取組結果>
<p>7-3. 子どもの読書活動支援の推進</p> <p>未来を担う子どもたちの心を培うため、対象年齢別に読書支援イベントを実施します。学校、家庭、地域との連携協働を図り「学校図書館支援センター」を核として、図書ボランティアの育成に努め、学校図書館を支援します。また、読書機会が極端に減少する中高生を対象に会議室を学習室として開放し、読書活動を支援します。</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>対象年齢別に、未来を担う子どもの読書支援イベントを実施しました。また、学校、地域との連携協働を図り「学校図書館支援センター」を核とし、学校図書ボランティアの育成に努め子どもの読書活動支援を推進しました。ただし、こどもの読書支援イベントの3月開催分については、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い中止となりました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆ こどもの読書支援イベントの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・「赤ちゃんとえほんの広場」の開催 12回 200人 ・「絵本とよちよち1・2・3」の開催 12回 200人 ◆ 学校図書館支援センター事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・「図書館司書の日」の実施 全小学校各15回、全中学校各3回 ◆ 「会議室（学習室）中高生開放Day」の開催 30日 600人 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ こどもの読書支援イベントの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・「赤ちゃんとえほんの広場」の開催 11回 258人[-] ・「絵本とよちよち1・2・3」の開催 11回 151人[-] ◆ 学校図書館支援センター事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・「図書館司書の日」の実施 全小学校各16.5回、全中学校各4回[A] ◆ 「会議室（学習室）中高生開放Day」の開催 38日 709人[A]
<p>8-1. 文化財の調査・保存・啓発の推進</p> <p>貴重な文化遺産を幅広く調査し、保存の処置を講ずるとともに、優れた伝統芸能や技術を継承する市民や団体をサポートし、文化遺産を後世に引き継いでいくための事業を推進します。また、市内の文化遺産や指定文化財について、市民がさらに理解を深め、その保存と活用について身近に考えることができるような事業展開を図ります。</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>貴重な文化遺産を幅広く調査し、保存の処置を講ずるための文化財指定も進め、文化財を後世に引き継いでいくための事業を推進しました。また、市内の文化遺産や指定文化財について、市民がさらに理解を深め、その保存と活用について身近に考えることができるような事業として、ホームページを充実したほか、出前講座・文化財説明会等を開催し、多数の参加者を得ました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市HP（文化財関係）への訪問者数 600人 ◆ まちかど歴史浪漫コンサートの入場者数 200人 ◆ 文化財現地解説会等の参加者数 1,000人 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市HP（文化財関係）への訪問者数 3,624人[A] ◆ まちかど歴史浪漫コンサートの入場者数 193人[A] ◆ 文化財現地解説会等の参加者数 1,330人[A]
<p>8-2. 文化活動への参加と、豊かな心を育む文化のまちの推進</p> <p>郷土の歴史・伝統・芸術文化に身近にふれることにより、自信と誇りの持てるまちづくりを創造するとともに、市民や子どもたちの郷土に対する愛着心の醸成を図り、ふるさと学習の推進に努めます。</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>市民の文化活動への参加を図り、郷土に対する愛着と誇りを継承して豊かな心を育む文化事業を推進しました。また、子どもたちが様々な文化芸術に触れるとともに自らが主体的に取り組み、子どもの時から豊かな感性や表現力、創造性を育むことができるよう、文化芸術に直接触れる機会の充実に努めました。ただし、3月下旬に予定していた鯖江市美術展については新型コロナウイルス感染症の流行に伴い中止となりました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 鯖江市美術展の開催 出品数 400点 来場者数 8,000人 気軽にアート展 出品数 4,800点 ◆ ふるさと学習の参加者数 2,000人<再掲> (まなべDEわくわくアートフェスタ、ふるさとさばえ検定、ふるさとさばえキッズ検定、近松入門講座、出前講座等) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 鯖江市美術展の開催 ※新型コロナウイルスの流行に伴い中止[-] 気軽にアート展 出品数 4,676点[A] ◆ ふるさと学習の参加者数 2,808人<再掲>[A] (まなべDEわくわくアートフェスタ、ふるさとさばえ検定、ふるさとさばえキッズ検定、近松入門講座、出前講座等)

< 取組項目 > 	< 取組結果 >
<p>8-3. まなべの館を活用した文化活動への参加と、文化に触れる機会の提供</p> <p>長い伝統に育まれた歴史や芸術文化など特色豊かな地域資源を有効に活用した鯖江の文化財や鯖江藩主間部詮勝の遺墨を紹介する企画展や全国レベルで活躍している作家の作品に触れることができる企画展を開催し、将来の鯖江を担う子どもたちの育成、高齢者の生きがい向上など幅広い世代が学び、遊び、楽しめ、親しみ、わかりやすい当館ならではの特色のある事業の推進を図ります。また、登録博物館であるまなべの館を活用し、市民の文化活動への支援と市民が広く芸術・文化にふれて、鑑賞・参加・創造することができる機会の提供し、市民に親しまれ、愛されるミュージアムを目指します。</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>本市出身の芸術家クリヨウジ氏とそのゆかりの人物として全国レベルで活躍しているヒサクニヒコ氏の作品にふれることができる企画展や、市内の歴史や文化財をはじめとする文化遺産を広く紹介する展覧会をとおして、市民の文化意識と郷土に対する愛着心の高揚に努め、多くの来館者を集客できました。また、創造空間事業では、文化活動発表の場として多くの市民が利用、鑑賞、交流し、まなべの館の有効活用を図りましたが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い1事業が自粛となり、目標値には至りませんでした。</p>
<p>◆ まなべの館企画展開催事業来場者数 7,000人 (企画展「ヒサクニヒコ原画展」、 企画展「間部詮勝遺墨展～幽玄の世界～」 企画展「あみきやら×文化遺産ジオラマ展」)</p> <p>◆ まなべの館創造空間事業(貸館事業)来場者数 18,000人</p>	<p>◆ まなべの館企画展開催事業来場者数 8,486人[A] (企画展「ヒサクニヒコ原画展」 2,608人) (企画展「間部詮勝遺墨展～幽玄の世界～」 855人) (企画展「あみきやら×文化遺産ジオラマ展」 5,023人)</p> <p>◆ まなべの館創造空間事業(貸館事業)来場者数 17,069人[-]</p>